

## 2025年度 大学入学共通テスト 英語 リスニング(本試験) 分析

試験時間 30 分(音声)

難易度	出題分量	出題傾向
例年並み 第 1、2 問 易 第 3、4 問 標準 第 5、6 問 標準～やや難	大きな変更なし  設問数・文章の長さなどに 増減は見られず。	大きな変更なし (細かい変更あり) 第 1、2 問が 2 回読み、 第 3 問以降が 1 回読みの 形式も踏襲
<p>総評</p> <p>例年通り、第 1、2 問は簡単な文章が 2 回読まれるため聴き取りやすく、特に第 2 問は選択肢がイラストのため、取り組みやすかった。第 3 問は問題用紙に状況が記されていることがヒントとなり、第 4、5、6 問はあらかじめ条件や図表を読む時間が与えられるため、過去問などでしっかり対策していた受験生は効率的に解答できたと思われる。</p>		

### 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	モノローグ	28点	<p>A: 1 人の話者が友人に何かを頼んだり、提案したり、意見を述べたりする短い文が 1、2 フレーズ読まれる。選択肢もヒントとなり、発話の意図を理解するのは比較的簡単。</p> <p>B: 1 人の話者がイラストの描写をする。大きさや色の表現の他にも、other などの代名詞や、none of them～のような代名詞を含む表現が多用されているため、文法の知識は必要。</p>
第 2 問	ダイアローグ	12点	<p>2 人の話者の会話から正しいイラストを選ぶ。「アプリ」が「app」と短い発音の単語だったり、「ボトル(bottle)」がカタカナ読みとは異なる発音だったり、普段から日本語との違いを意識して学習しておけば対応できる問題だった。昨年同様に位置関係を把握する会話も出題された。</p>
第 3 問	ダイアローグ	18 点	<p>1 回読みになり、正答率が下がる起点となりえるが、前もって問題文に目を通し、何を求められているか理解したうえで会話を聞くと、スムーズに解答できる。the day after tomorrow と in two days など音声と選択肢の言換えにも対応したい。</p>

第4問	A モノローグ(説明文) B 4人の意見	12点	A:学生の朝食について調査したグラフを読み取る問題と、天気予報を聞いて表を埋める問題。特に天気予報は月曜日、火曜日…と時系列で話が進むため解きやすかったと予想される。 B:例年と同じ複数の意見を聞く問題で3つの条件が問題に日本語で示されているので、聴きながら○×をつけていくだけで正解にたどり着ける。
第5問	問27~31 モノローグ(講義) 贈答文化について 問32、33 ダイアローグ	16点	贈答文化に関する講義を聴いてワークシートを埋める問題。例年に比べ若干話者の話すスピードが遅い、または間が空いているようにも思える。分数やパーセンテージの表現なども登場し、メモを取った受験生も多かったかもしれないが、必ずしも数字表現が解答に直接結びつくわけではなかった。昨年までとは異なり、 <b>32</b> 、 <b>33</b> について講義(モノローグ)ではなく、学生の会話(ダイアローグ)となったが、図表や選択肢を素早く読み取る必要があるのは、例年と同様だった。
第6問	A ダイアローグ(食事のとり方) B 3人の会話(鳥への餌やり)	14点	A:食事の時に食べ物をよく噛むかどうかのダイアローグ。示されている問題文が男女どちらの話者のことを聞いているのか、前もって読み取ったうえで音声を聴くと効率よく解答できる。 B:テーマについて複数の意見を聴く問題。昨年は4人だったが、今年は3人になったため、難易度は若干下がったと思われる。選択肢も①0人、②1人…というシンプルなもので、話者の名前ではないので、解答にかかる手間が減ったと言えるかもしれない。

#### 来年以降の受験生へ ワンポイントアドバイス

全体の形式は例年と同じで、受験生は過去問等でしっかり対策しておけば、焦ることなく取り組みたいと思われる。ただし同じ形式でも一部、昨年までとは異なる出題パターン(第5問: (旧)講義の続き→(新)内容についての学生の会話、(旧)4人の意見→(新)3人の意見など)が見受けられたため、やはり形式のみではなく、真の英語理解が必要であることには変わりない。1,2年生のうちから、①単語・熟語や基本的会話フレーズなどの知識を増やし、基礎力を身に着けること、②読解問題以外でもビラや説明書、ワークシートなどの日常にある英文を短時間で素早く理解できるように練習をすることなどを心がけたい。